PCT

国際調査報告

(法第8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 NT1624PCT	今後の手続きについては、様式PCT/ISA/220 及び下記5を参照すること。			
国際出願番号 PCT/JP2004/010157	国際出願日 (日.月.年) 09.07.2004 (日.月.年) 27.11.2003			
出願人 (氏名又は名称) 株式会社日立動	以作所			
国際調査機関が作成したこの国際調査報 この写しは国際事務局にも送付される。	股告を法施行規則第41条(PCT18条)の規定に従い出願人に送付する。			
この国際調査報告は、全部で2	ページである。			
□ この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。				
この国際調査機関に提出	Eか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。 された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。			
b. この国際出願は、ヌクレオチ	・ド又はアミノ酸配列を含んでいる(第 I 欄参照)。			
2. 請求の範囲の一部の調査ができない(第Ⅱ欄参照)。				
3. 三 発明の単一性が欠如している(第Ⅲ欄参照)。				
4. 発明の名称は 💢 出願人	が提出したものを承認する。			
□ 次に示	すように国際調査機関が作成した。			
5. 要約は ※ 出願人	が提出したものを承認する。			
国際調	に示されているように、法施行規則第47条(PCT規則38.2(b))の規定により 査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこ 調査機関に意見を提出することができる。			
6. 図面に関して a. 要約書とともに公表される図は、 第 <u>18</u> 図とする。	賃人が示したとおりである。			
出願	賃人は図を示さなかったので、国際調査機関が選択した。			
✓ 本図]は発明の特徴を一層よく表しているので、国際調査機関が選択した。			
b. 🔲 要約とともに公表される図はない。				

様式PCT/ISA/210 (第1ページ) (2004年1月)

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))				
Int. Cl' A61B8/06, G01S15/58				
B. 調査を	 行った分野			
	最小限資料(国際特許分類(IPC))			
1 - + (•	
Int.	C1' A61B8/00, G01S15/58			
目.1.182次火1八	なる 深い 一番 サンケーナ 八四 アカナト マナカ			
坂小阪資科以: 日本国実用	外の資料で調査を行った分野に含まれるもの B新案公報 1922-1996年			
日本国公開	実用新案公報 1971-2004年			
日本国登録実用新案公報 1994-2004年				
日本国実用新案登録公報 1996-2004年				
国際調査で使力	用した電子データベース (データベースの名 	F、調査に使用した用語)		
			•	
; I		•	•	
C ・ 関連する				
引用文献の	りてきないのとは、	·	関連する	
カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連する	ときは、その関連する箇所の表示	請求の範囲の番号	
X	Hans Torp, Clutter Rejection Fil		1, 5	
	A Theoretical Approach, IEEE TRA	NSACTIONS ON ULTRASONICS,		
	FERROELECTRICS, AND FREQUENCY CO	NTROL, 1997.03, vol.44,		
j	no. 2, pp. 417–424			
	(特に、p. 420 を参照のこと)			
A	JP 4-84953 A (松下電	四来米牛士 ◆牡)	1 10	
	1992.03.18	<u> </u>	$1 - 1 \ 0$	
	第3頁右下欄第14行目一第5頁右	上欄笙 2 行日		
	(ファミリーなし)			
		<u> </u>		
□ C欄の続き	にも文献が列挙されている。	□ パテントファミリーに関する別線	紙を参照。	
* 引用文献の	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	の日の後に公表された文献		
「A」特に関連	のある文献ではなく、一般的技術水準を示す	「T」国際出願日又は優先日後に公表さ	れた文献であって	
もの ままま ままま しょうしょう	「口笠の山原子をみ除むったです。 同時山原口	出願と矛盾するものではなく、発	明の原理又は理論	
	旧前の出願または特許であるが、国際出願日 表されたもの	の理解のために引用するもの「X」特に関連のある文献であって、当	はななるのなかなは	
「L」優先権主	張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行	の新規性又は進歩性がないと考え		
	は他の特別な理由を確立するために引用する	「Y」特に関連のある文献であって、当	該文献と他の1以	
	由を付す) る開示、使用、展示等に言及する文献	上の文献との、当業者にとって自 よって進歩性がないと考えられる		
	日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	よって進歩性がないと考えられる「&」同一パテントファミリー文献	₹ <i>0</i>	
可酸細木も会で) J. m		10.4	
国際調査を完了	04.08.2004	国際調査報告の発送日 17.8.20	104	
				
	名称及びあて先	特許庁審査官(権限のある職員)	2W 9808	
日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915		右高 孝幸 	<u> </u>	
		電話番号 03-3581-1101	内線 3290	
		i		